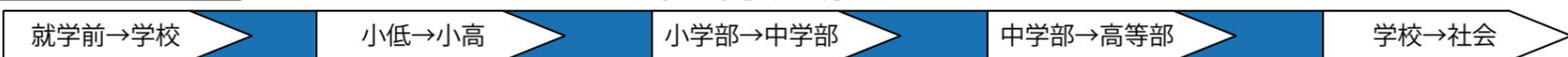


移行支援



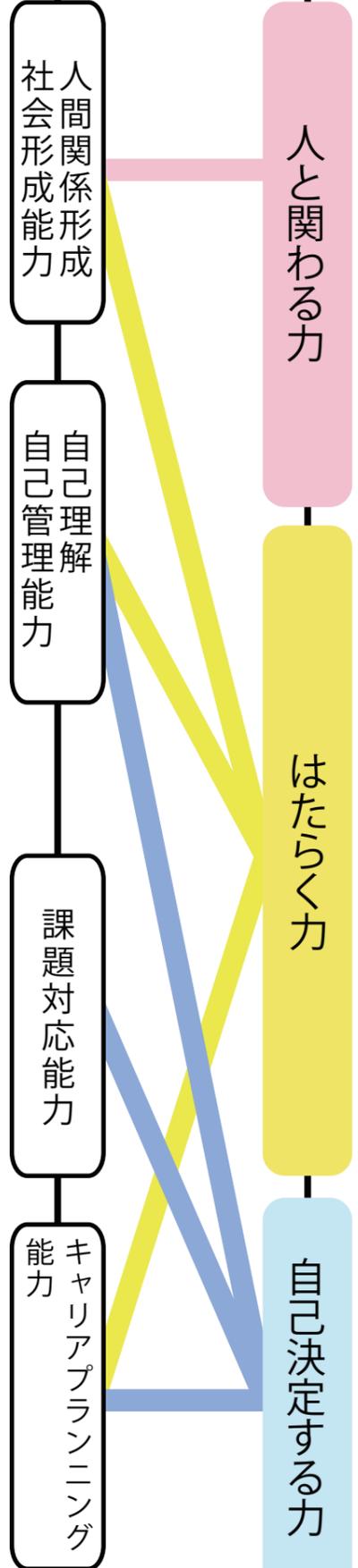
小学部	中学部	高等部	学校→社会
①主体的に関わる 挨拶の習慣をつける			
②伝える 特定の人へ気持ちを伝える → 周囲の人へ気持ちを伝える → 誰にでも分かりやすく気持ちを伝える			
③関わりを広げる 新しい集団(学校生活)に慣れる → 集団(学校生活)の中で人と関わる → 地域社会の中で人と関わる → 地域社会での人との関わりを拡充させる			
④支援を受ける 特定の人からの支援を受けとめる → 慣れた大人からの支援を受け活動する → 誰からでも支援を受けて活動する			
⑤憧れる 自分のよさ、友達のよさを知る → 自己肯定感、憧れる自己イメージをもつ → 友達や周りの人へ憧れをもつ → 夢や職業への憧れをもつ → 卒業後の生活への憧れをもつ → 中学校への期待感をもつ → 高校への期待感をもつ			
⑥役割を果たす 目標をもって活動する → 他の人のための仕事をはたす → 身近で働く人の仕事へ関心を向ける → 仕事や自分の役割へ関心を向ける			
⑦期待する これから行う活動が分かる → 次にを行う活動への見通しをもつ → 活動の流れの見通しをもつ → 期待感をもって活動に取り組む			
⑧自分でやる 障害の程度に応じたADLの確立 → 適切な支援を受けることや支援機器を活用することで、参加し活動する力をつける			
⑨楽しむ 自分の好きなことをみつける → 支援を受けながら好きなことに取り組む → 一人でも楽しめることをつくり、余暇を充実させる			
⑩選ぶ 好き嫌い・yes/noなどを選択する方法をみつける → あらゆる場面で可能な限り、自分で選択する → 自分なりの方法で意思を表示する			
⑪解決する 自分のことを自分でやろうとする → 自分の課題を自分で解決しようと考え工夫する			
			広げる力
積み上げる力			

移行支援

自立と社会参加(家庭・地域・社会)

健康に生きる力
 ・健康の維持
 ・生活リズムの安定

基礎的な学力をつける



保護者との連携(個別の教育支援計画に基づく)
 ・進路指導
 ・地域との連携
 ・社会資源の活用
 ・医療との連携

困難に対する支援
 ・ICFの観点
 環境因子、個人因子の障害への影響を考慮
 身体機能構造の障害と活動・参加の制限
 ・学習における合理的配慮
 AAC、AT等の活用
 環境支援(視環境、状況理解、予告)